安全データシート（ＳＤＳ）

１．化学品及び会社情報

昭　和　化　学　株　式　会　社
東京都中央区日本橋本町４－３－８
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡　　同　上
改訂日　　2022/10/24
SDS整理番号　13379252

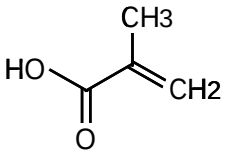
製品等のコード　：　1337-9252、1337-9260、1337-9150、1337-9160

製品等の名称　　：　メタクリル酸

推奨用途　　：　試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的用途。規格により用途は相違。)
熱硬化性塗料、接着剤、ラテックス改質剤、共重合によるプラスチック改質、
イオン交換樹脂、紙・織物加工剤、皮革処理剤 など

使用上の制限　　：　推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性
- 引火性液体　：区分4
- 自己反応性化学品　：タイプG
- 自然発火性液体　：区分に該当しない

健康に対する有害性
- 急性毒性（経口）　：区分4
- 急性毒性（経皮）　：区分3
- 皮膚刺激性/刺激性　：区分1
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性　：区分1
- 特定標的臓器毒性（単回ばく露）　：区分3（気道刺激性）
- 特定標的臓器毒性（反復ばく露）　：区分1（神経系、肝臓、腎臓、副腎）、区分2（呼吸器）

環境に対する有害性
- 水生環境有害性 短期(急性)　：区分3

注意喚起語：　危険

危険有害性情報
- 可燃性液体
- 飲み込むと有害（経口）
- 皮膚に接触すると有毒（経皮）
- 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
- 重篤な眼の損傷
- 呼吸器への刺激のおそれ
- 長期又は反復暴露による神経系、肝臓、腎臓、副腎の障害
- 長期又は反復暴露による呼吸器の障害のおそれ
- 水生生物に有害

注意書き
【安全対策】

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。
【応急措置】
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせない。気分が悪い時は医師に連絡すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、取り除くこと。
　皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に
　外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
【保管】
日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、
　　現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別		： 化学物質
化学名		： メタクリル酸 （別名）2-メチルプロペン酸、2-メチルアクリル酸、 2-メチル-2-プロペン酸、α-メチルアクリル酸、 MAA、MA （英名）Methacrylic acid（EC名称）、 2-Methyl-2-propenoic acid、 2-Propenoic acid, 2-methyl-（TSCA名称）、 alpha-Methylacrylic acid、2-Methylacrylic acid、 2-Methylpropenoic acid
成分及び含有量		： メタクリル酸、 99.0%以上 重合防止剤として、MEHQを約0.025%含有する。
化学式、構造式		： C4H6O2、 CH2:C(CH3)COOH、 構造式は上図参照(1ページ目参照)。
分子量		： 86.09
官報公示整理番号	化審法	： (2)-1025
	安衛法	： 公表化学物質（化審法番号を準用）
CAS No.		： 79-41-4
EC No.		： 201-204-4
危険有害成分		： メタクリル酸

4. 応急措置

吸入した場合　：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
気分が悪い時は、医師の診察、手当を受ける。

皮膚に付着した場合：直ちに医師に連絡する。
直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐ。
皮膚を速やかに多量の水と石鹸で洗う。
皮膚刺激などが生じた場合は、医師の診察、手当を受ける。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。

目に入った場合　：直ちに医師に連絡する。
直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてから
ゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水
で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。
まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの
隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。
次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、
洗浄を続ける。
眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の
診断を受ける。

飲み込んだ場合　：口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。
吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。
直ちに、牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。

牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。
意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないよう、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。
気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状：
吸入：咳、灼熱感、息切れ、息苦しさ。 肺水腫の症状は 2〜3 時間経過するまで現われない場合が多く、安静を保たないと悪化する。したがって、安静と経過観察が不可欠である。
皮膚：発赤、皮膚熱傷、痛み、水疱
眼　：発赤、痛み、視力喪失、重度の熱傷
経口摂取：胃痙攣、腹痛、灼熱感、脱力感

応急措置をする者の保護： 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項： 医師又は医師が認定した者による適切な吸入療法の迅速な施行を検討する。

5.火災時の措置

適切な消火剤　：　本製品は可燃性、引火性で燃焼しやすい。
粉末、二酸化炭素、泡消火剤、水噴霧
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。

使ってはならない消火剤：　棒状放水（本品があふれ出て、火災を拡大するおそれがある。）

特有の危険有害性　：　引火性がある。
燃え易いので、熱、火花、火炎で容易に発火する。
引火点(77℃)以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
本製品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、屋内、屋外、下水溝などでの遠距離引火の可能性がある。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
消火水は汚染を引き起こすおそれがある。

特有の消火方法　：　火元への燃焼源を遮断する。
火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

消火を行う者の保護　：　消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
：　漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。

環境に対する注意事項　：　河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。

回収、中和　：　乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、液面を泡で覆い密閉できる容器などに回収する。

封じ込め及び浄化の方法・機材
：　危険でなければ漏れを止める。
漏洩エリア内で稼動させる設備・機器類は接地する。

二次災害の防止策　：　事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
周辺の発火源を速やかに取除く。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7.取扱いおよび保管上の注意

取扱い
技術的対策　：　裸火禁止、火花禁止、禁煙。強力な酸化剤との接触禁止。
引火点(77℃)以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。
ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。
指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。

指定数量の1/5以上、1未満（少量危険物）の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。
指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。
炎、火花または高温体との接触を避ける。
静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。
本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。

局所排気・全体換気　：　防爆仕様の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気する。

安全取扱い注意事項　：　すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。

接触回避　：　炎、火花または高温体との接触を避ける。

保管

技術的対策　：　保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。
保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。

保管条件　：　熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。
光のばく露や高温を避けて保管する。
容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。
一定の場所を定めて、施錠して保管する。
危険物を貯蔵する所には「火気厳禁」等の表示を行う。
貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う。
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。

混触危険物質　：　酸化剤、還元剤、強アルカリ剤

容器包装材料　：　ガラスなど。

＜参考＞　容器包装材料の室温における耐薬品性（あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要）

【 ◎:良好　○:やや良好(条件による)　△:やや不良　　×:不良　　ー:データなし 】

スチレンゴム×　クロロプレンゴム(ネオプレン)×　ニトリルゴム×　ブチルゴム○
天然ゴム×　シリコーンゴムー　フッ素ゴム(バイトン、ダイエル)×　テフロン◎
軟鋼◎　ステンレス（SUS304◎　SUS316ー）　チタンー　アルミニウムー　銅ー
軟質塩ビ×　硬質塩ビ×　ポリスチレン×　ＡＢＳ×　ポリエチレンー　ポリプロピレンー
ナイロン×　アセタール樹脂×　アクリル樹脂×　ポリカーボネート×　ガラス◎

8．ばく露防止及び保護措置

管理濃度　：　設定されていない。

許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：

日本産業衛生学会　設定されていない。

ACGIH　TLV-TWA　20ppm

設備対策　：　防爆の電気・照明機器を使用する。
作業場には防ばく型の換気装置を設置し局所排気又は全体換気を行なう。
静電気放電に対する予防措置を講ずる。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。

保護具

呼吸器の保護具　：　呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク）を着用する。

手の保護具　：　保護手袋を着用する。
ニトリルゴム及び塩ビは適切な保護材料ではない。
ネオプレン製が推奨される。

眼の保護具　：　保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。

皮膚及び身体の保護具：　長袖作業衣を着用する。
必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。

衛生対策　：　この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9．物理的及び化学的性質

物理状態
　性状　：液体
　色　：無色～ほとんど無色
臭い　：刺すような不快臭
pH　：2.1（10%水溶液、20℃）
融点　：16℃
凝固点　：データなし
沸点　：159-163℃
引火点　：77℃（密閉式）
可燃性　：引火性
爆発範囲　：下限　1.6vol%　上限　8.7vol%
蒸気圧　：130 Pa(25℃)
相対ガス密度（空気 = 1）：2.97
密度又は相対密度　：データなし
比重　：1.012～1.018（20/4℃）
溶解度　：水に混和しやすい（溶けやすい）。
　エタノール、エーテルに混和しやすい（溶けやすい）。
オクタノール/水分配係数　：log Pow = 0.93
発火点　：400℃
分解温度　：データなし
臭いのしきい（閾）値　：データなし
粘度　：1.3mPa・s（1.3ｃP）（25℃）
動粘度　：データなし
粒子特性　：データなし

ＧＨＳ分類
引火性液体　：可燃性液体（区分4）
　引火点は68℃(密閉式)であることから、区分４とした。
自己反応性化学品　：タイプG
　自己反応性に関連する原子団（エチレン基）を含むが、安定剤入りのものはUNRTDGにおいてUN 2531、クラス8、PGⅡに分類されており、優先評価項目の自己反応性化学品には該当しない。
　なお、安定剤量が足りないものは船舶輸送禁止物質（危規則告示第５条１項五のニ）である。
自然発火性液体　：区分に該当しない。
　発火点は400℃（NFPA（13th,2002））であり、常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとした。

10．安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）
　：自然重合性あり。
　製品には重合防止剤を添加しているが、長期間保管していると重合することがある。
危険有害反応可能性　：加熱、光、過酸化物などの酸化剤もしくは微量の塩酸の存在下で容易に重合し、火災又は爆発の危険を伴う。
　亜硫酸水素ナトリウム、チオ硫酸ナトリウム又は過酸化水素と混触すると重合反応が生じる。
　蒸気は抑制されておらず重合して排気孔を詰まらせることがある。
　酸化剤と激しく反応する。
　強アルカリと混触すると発熱を伴い激しく反応する。
避けるべき条件　：高温、日光、光、裸火、高温、スパーク、静電気
混触危険物質　：酸化剤、還元剤、強アルカリ剤
危険有害な分解生成物：一酸化炭素、二酸化炭素

11．有害性情報

急性毒性　：経口　ラット　LD50＝1,060 mg/kg（環境省リスク評価書第2巻（2003））
　飲み込むと有害（経口）（区分4）
　経皮　ウサギ　LD50＝500-1,000 mg/kg（EU-RAR No.25（2002））
　皮膚に接触すると有毒　（経皮）（区分3）
　吸入（蒸気）　分類できない。
　吸入（ミスト）区分に該当しない。
　ラットを用いた吸入暴露試験の LC50(4時間)=7.1 mg/L(2,000 ppmに相当)（EU-RAR No.25（2002））
皮膚刺激性/刺激性　：CERI・NITE 有害性評価書 No.92（2005）　の1匹のウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果の記述に「3分間の開放適用で腐食性がみられた」、とあることから、区分１とした。

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷　（区分1）
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： CERI・NITE有害性評価書 No.92 (2005) のウサギを用いたOECDテストガイドライン405 に準拠した眼刺激性試験の結果の記述に「24 時間後、全てのウサギに角膜混濁、虹彩刺激、結膜充血、結膜浮腫がみられた。」「7 日目でも角膜混濁、虹彩刺激、結膜刺激は回復せず、化学火傷、角膜上皮の壊死脱落、前眼房の蓄膿がみられた」とあることから、腐食性を有すると考えられ、また、皮膚刺激性が区分1Aであるため、区分１とした。
重篤な眼の損傷　（区分1）
呼吸器感作性　：　分類できない。
皮膚感作性　：　区分に該当しない。
CERI・NITE有害性評価書 No.92 (2005)のモルモットを用いたビューラー法による試験結果で感作性はみられず、Polak adjuvant法の試験結果でも陽性の反応はみられず、ヒトへの疫学事例でも皮膚感作性を示す結果が得られておらず、EU-RAR No.25 (2002) で「ヒト症例及び動物試験からメタクリル酸は感作性物質ではない」と結論づけている。
生殖細胞変異原性：　分類できない。
発がん性　：　知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できない。
生殖毒性　：　分類できない。
特定標的臓器毒性
（単回ばく露）：　実験動物については、「呼吸器経路の刺激」（EU-RAR No.25 (2002)）等の記述があることから、気道刺激性を有すると考えられる。
分類は区分３（気道刺激性）とした。
呼吸器への刺激のおそれ　（区分3）
特定標的臓器毒性
（反復ばく露）：　ヒトについては、「頻脈、低血圧、ニトログリセリンとの過度の反応、低体温、加熱・紫外線暴露に対する弱い反応、Ashner反射の病理学的変化、肢端チアノーゼ 、手の指の振戦などが見られた」（EU-RAR No.25 (2002)）等の記述、実験動物については、「肝臓中の酵素の変化、電解質の変化、肝臓、副腎の重量減少、肝臓、腎臓・副腎の萎縮、鼻腔嗅上皮変性」（CERI・NITE有害性評価書 No.92 (2005)）等の記述があることから、神経系、肝臓、腎臓、副腎、呼吸器が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、肝臓、腎臓、副腎への影響が区分1、呼吸器への影響が区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。
以上より、分類は区分1（神経系、肝臓、腎臓、副腎）、区分2（呼吸器）とした。
長期又は反復ばく露による神経系、肝臓、腎臓、副腎の障害（区分1）
長期又は反復ばく露による呼吸器の障害のおそれ（区分2）
誤えん有害性　：　分類できない。

12．環境影響情報

生態毒性
水生環境有害性 短期(急性)：藻類（セレナストラム）72時間ErC50=14mg/L
（CERI･NITE有害性評価書、2005）
水生生物に有害（区分3）
水生環境有害性 長期(慢性)：区分に該当しない。
急速分解性があり（BODによる分解度：91%（既存化学物質安全性点検データ））、かつ生物蓄積性が低いと推定される（log Kow=0.93（PHYSPROP Database、2005））ことから、区分に該当しないとした。
残留性・分解性　：　良分解性。BOD分解度＝91%
生物蓄積性　：　低濃縮性。Log Kow＝0.93
土壌中の移動性　：　データなし
オゾン層への有害性　：　本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13.廃棄上の注意

残余廃棄物　：　関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。

（参考）(1)燃焼法
可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉（おが屑）等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。
(2)活性汚泥法
生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。

汚染容器及び包装　：　内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14．輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号　：　153P（P：熱や不純物により爆発的に重合を起こす）

国際規制
海上規制情報（IMDGコード/IMOの規定に従う）
UN No.　：　2531
Proper Shipping Name：　METHACRYLIC ACID, STABILIZED
Class　：　8 (腐食性物質)
Sub risk　：　－
Packing Group　：　II
Marine Pollutant　：　No（非該当）
TRANSPORT IN BULK ACCORDING TO ANNEX II OF MARPOL 73/78 AND THE IBC CODE
POLLUTANT CATEGORY　：　Y（メタクリル酸）
Limited Quantity　：　1L
航空規制情報（ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う）
UN No.　：　2531
Proper Shipping Name：　Methacrylic acid, stabilized
Class　：　8
Sub risk　：　－
Packing Group　：　II
国内規制
陸上規制情報（消防法、毒劇法、道路法の規定に従う。）
海上規制情報（船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う）
国連番号　：　2531
品名　：　メタクリル酸（安定剤入りのもの）
クラス　：　8
副次危険　：　－
容器等級　：　II
海洋汚染物質　：　非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類
：　Y（メタクリル酸）
少量危険物許容量　：　1L
航空規制情報（航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う）
国連番号　：　2531
品名　：　メタクリル酸（安定剤入りのもの）
クラス　：　8
副次危険　：　－
容器等級　：　II
少量輸送許容物件許容量　：　0.5L

特別の安全対策　：　危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。
危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。
危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込む。
重量物を上積みしない。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
車輌等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15．適用法令

労働安全衛生法　：　名称等を表示すべき危険物及び有害物

（政令番号　第556号「メタクリル酸」、対象重量%は≧１）
名称等を通知すべき危険物及び有害物
（政令番号　第556号「メタクリル酸」、対象重量%は≧１）
（別表第９）

化審法　：　優先評価化学物質　No.35（官報公示日：2011/04/01）
評価対象；人健康影響
旧第二種監視化学物質　No.1047　（官報公示日：2010/04/01）

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)：
・種　　別　「第1種指定化学物質」
・政令番号　「1-415」〔ただし、R5年4月1日から「1-468」に変更〕
管理番号：415
・物質名称　「メタクリル酸」

消防法　：　危険物第4類引火性液体、第三石油類　水溶性液体　指定数量4000L
危険等級III　（法第２条第７項危険物別表第１）

毒劇法　：　劇物「メタクリル酸」（指定令第２条）、包装等級III

船舶安全法　：　腐食性物質
（危規則第２，３条危険物告示別表第１）

航空法　：　腐食性物質
（施行規則第１９４条危険物告示別表第１）

海洋汚染防止法　：　有害液体物質　Y類物質「メタクリル酸」（施行令別表第1）

水質汚濁防止法　：　生活環境項目（施行令第三条第一項）
「水素イオン濃度」
〔排水基準〕・海域以外の公共用水域に排出されるもの
5.8以上8.6以下
・海域に排出されるもの5.0以上9.0以下
「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」
〔排水基準〕160mg/L 以下（日間平均 120mg/L 以下）
（注）排水基準に別途、条例等による上乗せ基準がある場合は
それに従うこと。

大気汚染防止法　：　有害大気汚染物質（中環審第９次答申の２２７）

輸出貿易管理令　：　キャッチオール規制（別表第1の16項）
HSコード：2916.13
第29類 有機化学品
・輸出統計番号（2022年版)：2916.13-000
「不飽和非環式モノカルボン酸及び環式モノカルボン酸並びにこれらの酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体－不飽和非環式モノカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらの誘導体：メタクリル酸及びその塩」
・輸入統計番号（2022年4月1日版)：2916.13-000
「不飽和非環式モノカルボン酸及び環式モノカルボン酸並びにこれらの酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体－不飽和非環式モノカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらの誘導体：メタクリル酸及びその塩」

16．その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項：
本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施錠、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献　：

化学物質管理促進法PRTR･MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険･有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修

Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH　CD-ROM
GHS分類結果データベース　nite（独立行政法人　製品評価技術基盤機構）　HP
GHSモデルMSDS情報　中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター　HP

このデータは作成の時点においての知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。